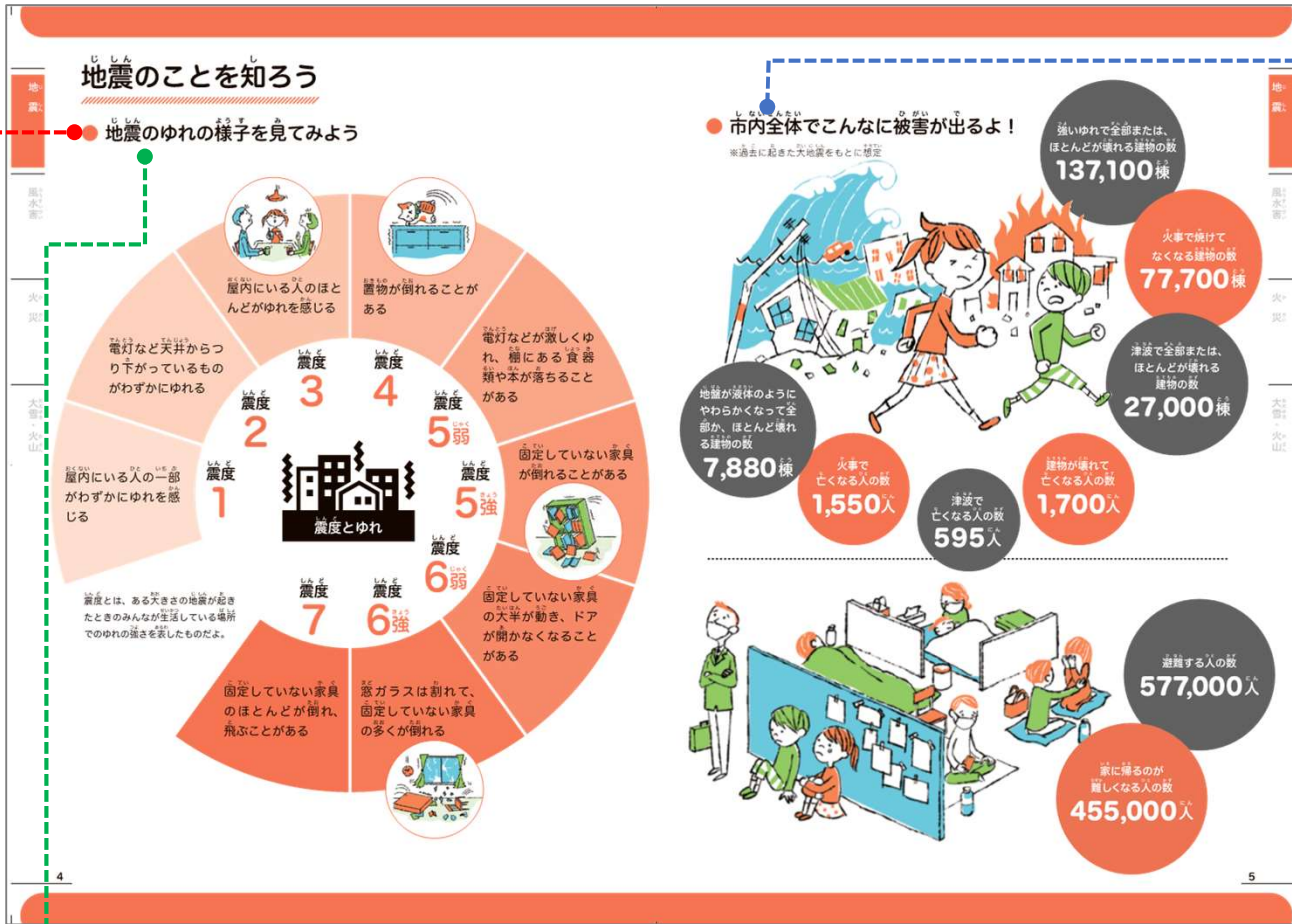


文字の色について

赤文字：単語の意味の説明

青文字：児童に促したいポイント(児童への支援の視点や発展的な内容)

緑文字：ミニ知識(補足)



【児童考察】

被害について考える際は、大地震が発生したらどうなるだろう、どのようなことが起こり得るだろうか、津波、建物倒壊、火災の発生、土砂崩れ、避難所についてなど具体的に問いかけ、想像を膨らませよう導く。

【地震のゆれの説明】
①震度とは地震の揺れの程度をあらわしたもので、0～7までの10階級がある。※5～6は弱強であらわす。

震度はどうやって決めるのか？
地震による揺れを感知し自動的に震度を計算する「震度計」という機械で計測している。

地震が発生すると全国の震度計で観測された震度を自動的に収集し、気象庁では震度3以上の地震が発生した場合、約1分半後には各地域の震度を速報でお知らせしている。

※参照：国土交通省 気象庁 リーフレット「その震度 どんなゆれ？」

【地震のゆれのミニ知識】

震度はなぜ5と6だけ強弱と二種類あるのだろうか。
観測計で観測した震度の数値を四捨五入して、切り上げてその震度になったものは「弱」、切り捨ててその震度になったものは「強」となる。

- （具体例）
- 5弱・・・大半の人が恐怖を感じ、周囲の物につかまりたくなるようなゆれ
 - 5強・・・周囲の物につかまらなさと歩けないほどのゆれ
 - 6弱・・・立っているのが楽になるようなゆれ
 - 6強・・・床をわなわなと歩けない、激しい揺れにより飛ばされることもある

※参照：国土交通省 気象庁 リーフレット「その震度 どんなゆれ？」

文字の色について

赤文字：単語の意味の説明

青文字：児童に促したいポイント(児童への支援の視点や発展的な内容)

緑文字：ミニ知識(補足)

[児童考察]

地震が起きたら必ず机の下にもぐると認識している児童がいるかもしれないが、地震の時は、ものが「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」場所に素早く身を寄せることが大切である。屋外にいるときも想定し場所や状況に応じて行動は変わるということに気付かせたい。

[児童考察]

地震や火事の時、子供は自分の判断で命を守る必要がある。難しい言葉を使わず一言で伝えられるため、年齢に関係なく理解しやすく、すぐに定着させることができる。

● 登下校中、大きな地震が起きたら？

上から落ちてきそうなもの、倒れてくるものに注意して、自分の身を守ろう！

ココが大切！

- 学校に避難したときは、おうちの人が迎えに来るまで学校にいろ！
- 家が壊れている場合は学校に避難しよう！

● 家にいるとき、学校が休みのとき、大きな地震が起きたら？

● 屋内にいたら？

- ぐらっときたら、机やテーブルの下にもぐろう
- 火が出ていたら、外に出て大声で人を呼ぼう
- 避難するときは、エレベーターを使わないようにしましょう
- もしエレベーターに乗っていたらすべてのボタンを押し、止まった階でおいて身を守ろう

● 屋外にいたら？

習い事や放課後の学童にいたら？

天入にしたがおう！

海や川の近くにいたら？

逃げる時間があるときは遠くへ！逃げる時間がないときは近くの高い場所へ逃げよう！

公園にいたら？

すぐに遊具から離れて身を守ろう！

ココが大切！

- 外に出かけるときは、おうちの人にどこへ行くかしっかり伝えよう！
- 家に帰れなくなったときは、むやみに移動せず、まわりの安全を確認したり、家族に連絡しよう。

[児童考察]

発災時、場所や状況によってとる行動が変わってくる。平常時であれば、落ち着いてどのような行動をすればよいか考えられるが、地震発生時は、ほとんどの人が動けなくなる。そのため、特に避難訓練時は、災害時のシミュレーションを具体的に想定するだけでなく、様々な場所での行動を想定できるようにする。

[エレベーターの説明]

全ての階のボタンを押し、最初に停止した階で降りるのが原則だが、停止した階で慌てておろすのではなく、階の状況を見極めるのも大切。

②地震の時は閉じ込められている人も大勢いると予想される。救助がすぐに駆け付けられるとは限らない。焦らず冷静になり「非常用呼び出しボタン」等で連絡を取る努力をする。

※参照：消防庁防災マニュアル

[避難時のミニ知識]

①小さな揺れの時、又は揺れがおさまった後に、窓や戸を開け、出口の確保をする。

地震がおさまってから、すぐに行動をすると、予期せぬタイミングで物が落下してることがある。そのため、しばらくはテーブルの下などへ身を隠しておく。

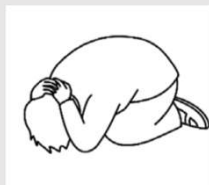
※参照：消防庁防災マニュアル

①命を守る3つのポーズ

1. サルのポーズ (地震：机がある時)



2. ダンゴムシのポーズ (地震：机がない時)



3. アライグマのポーズ (火事の時)



文字の色について

赤文字：単語の意味の説明

青文字：児童に促したいポイント(児童への支援の視点や発展的な内容)

緑文字：ミニ知識(補足)

【地域防災拠点の説明】

「地域防災拠点」という名称は、災害対策基本法が改正される以前から避難生活を送る場所として広く周知している。

横浜では、上記のように指定避難所を指定はするものの、「地域防災拠点」という名称を今後も継続して使用していく。

※参照：横浜市「地域防災拠点 地域防災拠点(指定避難所)とは」

【津波注意報の説明】

予想される津波の最大波の高さが高いところで0.2m以上、1m以下の場合であって、津波による災害のおそれがある場合。

(取るべき行動)

海の中では人は速い流れに巻き込まれる。海の中にいる人はただちに海から上がって、海岸から離れる。

【津波警報の説明】

予想される津波の最大波の高さが高いところで1mを超え、3m以下の場合。

(取るべき行動)

標高の低いところでは津波が襲い、浸水被害が発生する。人は津波による流れに巻き込まれる。

ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難する。

※参照：気象庁「津波警報・注意報、津波情報、津波予報について」

【津波のミニ知識】

津波はジェット機なみの速さでおよせてくる。海上の場合、深さによって下記のような例えが出来る。乗り物に例えてみると、いかに津波の威力が凄まじいかわかる。知る事が出来る。

深さ5,000m=ジェット機と同じくらいのスピード

深さ500m=新幹線と同じくらいのスピード

深さ50m=自動車と同じくらいのスピード

津波注意報が発令された際、速やかに避難することが重要。津波が到達してしまうと、ひざ程度の高さでも立ってられない。

《具体例》2011年3月11日に発生した東日本大震災では、津波注意報が発令されたものの、実際に津波からの避難を想定している方は多くなかった。津波は、地震発生から数分後に発生し、多くの人が逃げ遅れ被害に遭われた。

※参照：三重県教育委員会「防災ノート」

【児童考察】

定期的に家族で防災について話すことで、災害に対する危機意識を風化させないことが目的。常に災害に気を張っていることは難しいが、毎年必ず災害に向き合う時間を作ることで、少しでも災害に備えられるようにする。



文字の色について

赤文字：単語の意味の説明

青文字：児童に促したいポイント(児童への支援の視点や発展的な内容)

緑文字：ミニ知識(補足)

P.15参照

風水害(台風・大雨)のことを知ろう

警戒レベルと、そのときとるべき行動

警戒レベル 1	警戒レベル 2	警戒レベル 3	警戒レベル 4	警戒レベル 5
大雨になりそう	大雨注意報が出た!	大雨・洪水警報が出た!	土砂災害警戒情報が出た!	大雨特別警報が出た!
大雨になった場合を想定して、心構えをする	どう避難するか、確認する	避難に待機がかかる人は、避難を開始する	安全な場所へ避難する	すぐに命を守る避難行動を行う!
<p>★大雨・洪水警報とは、大雨で大きな災害が発生しそうなとき、注意を呼びかける警報だよ。</p> <p>★土砂災害警戒情報とは、大雨で山の危険にかかわる、がけくずれや土砂くずれなど土砂災害が発生しそうなとき、発表される情報だよ。</p>				

住んでいる地域や家でこんな被害が出るよ!



【児童考察】

自分たちの住んでる地域ではどのような危険が起こりうるか、過去の例を見ながら想定させる。

《風水害による具体例》

◎2018年7月豪雨災害

西日本を中心に発生した豪雨により、広範囲で河川氾濫や土砂災害が発生し、多数の死傷者や行方不明者が出た。

◎2019年台風15号

関東地方を中心に発生した台風により、強風による屋根の飛散、樹木や電柱の転倒、内水氾濫などの被害が発生。

◎2021年台風9号

九州地方を中心に発生した台風により、大雨による河川氾濫や土砂災害、内水氾濫、強風による倒木や停電などの被害が発生。

※参照：東京都防災ホームページ

【ハザードマップのミニ知識】

ハザードマップは、自然災害が発生した場合に被害が想定されるエリアや避難場所などが示された地図であり、8種類ある。

その中でも洪水ハザードマップとは洪水が発生した場合に浸水が予想されるエリアが、浸水の深さごとに色分けされている。河川に近いエリアは被害予測が大きくなることが多い。危険な地域には黄と緑で示されており、その地域に住んでいる人は大雨の際には注意が必要。

※参照：国土交通省「ハザードマップポータルサイト」

風水害に備えよう!

台風や大雨は、事前にくることがわかるから、前もって備えておくことが大事だよ!

横浜市が開く避難場所



どこを避難場所として開くかは、災害の大きさや状況によって違ってくるんだ。風水害時に自分が住んでいる区のホームページやテレビなどで確認するようにしよう。

ハザードマップを使って、住んでいる地域が

どれだけ危険か確認しよう!

おうちや通学路、学校など、身近な場所に危険がないかを今のうちから見ておこう。

横浜市 防災の地図

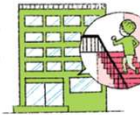


★ハザードマップは区役所で配布しているよ!!

■家が安全な場合は、家に待機しよう
必ずしも避難場所へ行く必要はないよ。

■家の2階が安全な場合は、家の2階へ避難または、近くの高い建物へ避難

■安全な場所への避難
(横浜市が開く避難場所、安全な親戚の家など)



風水害が起きたときの避難行動のポイント

【風水害時の避難場所の説明】

風水害の場合、必ずしも地震の際の避難所である地域防災拠点(小・中学校)が開設されるわけではない。地区センター、自治会庁内会館等が開設される場合もある。そのため、避難する場合は、必ず市や居住している区役所のホームページで開設されている避難場所を確認する。

※参照：横浜市「風水害時に開設される避難場所について」

P.15参照

文字の色について

赤文字：単語の意味の説明

青文字：児童に促したいポイント(児童への支援の視点や発展的な内容)

緑文字：ミニ知識(補足)

登下校中、台風や大雨がきたら？

風で落ちてきそうなもの、倒れてきそうなものから離れよう

がけ **マンホール** **側溝**

できる限り
がけから離れよう

傘などで足元を
確かめよう

むやみに近づかない

ココが大切！

- 学校に行く前に天気予報を確認するようにしよう。
- 1時間に10mm(やや強い雨)以上の雨が降る予報のときは注意が必要だよ。

家にいるとき、学校が休みのとき、台風や大雨がきたら？

● 自分の家、友だちの家にいたら？ ●

家が安全な場合には、家の2階など安全な場所にしよう

家が安全でない場合には、避難場所などに避難しよう

● 屋外にいたら？ ●

川の水量が増えてきたら、すぐ川から離れよう

ものが飛んでくることもあるので、安全な建物の中に避難しよう

ココが大切！

● 川について知っておこう

- ・ 川の水量が増えるのは、その場で雨が降っている時だけじゃない!
- ・ 川の上流で雨がたくさん降っていると、降った雨が下流に流れてくるよ。急に水量が増えたり流れが速くなることもあるから、川の近くにいるときは気をつけよう。

【屋内でのミニ知識】

大雨の際、家の中にいる場合は、窓やドアを閉め、電気やガスを消して、安全な場所に避難する。

一階は浸水する恐れがあるため、なるべく高いところ(二階など)で待機する。

※参照：横浜市「台風・大雨への備えについて」

【屋外での避難のミニ知識】

川の氾濫や土石流、がけ崩れ、地すべりなどが発生しやすい、川の急激な増水が生じたり、道路や住宅の浸水、道路のアンダーパス(体交差で、掘り下げ式になっている下の道路。くり抜け式通路)等の地下空間の水没といった被害も発生している。

これらの場所に近づかないようにするのが大切。

台風や大雨がきたら、ただちに頑丈な建物内に避難する。

※参照：気象庁「浸水キキウ」

【がけのミニ知識】

がけ崩れが起こるには前兆現象がある。前兆現象がみられたら早めの避難行動を取る。

また、前兆現象の発生からがけ崩れの発生まで間が無い場合や、前兆現象がなくがけ崩れが発生する場合もある。危険を感じたら、早めに避難する。

【マンホールのミニ知識】

大雨により道路にあるマンホールのふたが外れている場合があるので、十分注意して近寄らないようにする。

【側溝のミニ知識】

集水桝の中が土砂などで溜まっていたりすると、排水ができずに側溝からも水があふれ出してくる。そして、道路などに水が溜まってしまう。

※参照：横浜市「台風・大雨への備えについて」

【児童考察】

1時間に10mm以上～20mm未満の降水量では、「やや強い雨」の階級に分類される。地面には一面に水たまりが出来、跳ね返りで足元が濡れる。また、木造住宅の屋内では雨の音で話し声がよく聞き取れなくなる程度の雨が降る。

登下校の際の行動を自分で判断させたり、それを保護者には提案できる力を身につけさせたい。

《大雨の際の登下校の注意点》

- ・ 登校前に天気予報を確認し、必要に応じて傘やレインコートを持参する
- ・ 視界が悪くなるため、歩き方に注意。歩幅を小さくし、足元に注意して歩く。
- ・ 道路が滑りやすくなるため、靴底が滑りにくい靴を履く。歩道の浸水具合によっては、長靴よりも普段履き慣れた運動靴の方が安全。

※参照：気象庁「雨の強さと降り方」

文字の色について

赤文字：単語の意味の説明

青文字：児童に促したいポイント(児童への支援の視点や発展的な内容)

緑文字：ミニ知識(補足)

[過去の火災のミニ知識]

毎年約600件の火事が発生している。さらに、2023年には733件の火災が発生し、前年より94件増加した。

※参照：横浜市「月別火災発生件数（平成12年から令和4年）」

火事のことを知ろう

● **火事はどれくらい起きているの？**

横浜市では毎年、約600件くらいの火事が起きているんだ。自分の身を守るように、そして火事を起こさないようにするため、みんなで火事のことを勉強してみよう！

■ 横浜市内で起きた火事の件数

2022年	639
2021年	698
2020年	624

火事で一番危険なものは？

火事で一番危険なものは煙なんだ。火事の時に出る煙は、危険なガスを含んでいて、これを吸うと、頭が痛くなったり、意識がなくなってしまうんだ。煙はまわりの空気よりも軽くなるため、上へ上へと、1秒間に3メートルから5メートルの速さで上がっていくよ。

119番通報をしよう

火事や急病の人を見つけたときは、すぐに119番通報をしよう。周りの人に早く知らせることも大切だよ。

119番通報の仕方

- ・正しく119番する
- ・「火事」か「救急」かを伝える
- ・住所（区名・町名・番地）と名前、電話番号を伝える
- ・電話に出た人が「わかりました」というまで電話は切らない
- ・携帯電話で119番通報を行うときは、必ず「横浜市」とつけて住所を伝える
- ・場所がわからない場合は、目標を伝える

[煙の説明]

②火事では一番怖いのは煙である。煙には危険なガスを含み、吸い込んで意識がなくなって逃げられなくなることもある。

※参照：横浜市消防局予防部予防課～家事や災害から身を守る方法

火事について～2 火事で1番危険なもの

[煙からの避難のミニ知識]

⑥ 避難時にタオルやハンカチで口や鼻を覆うことで、煙粒子や刺激性のガスを吸い込むことを低減すると同時に吸気温度を下げ、生理的な負担の軽減が期待できる。しかし、有毒ガスの除去は期待できない。

※参照：消防庁消防研究センター「平成26年3月3日 タオルやハンカチ等の除煙効果に係る実験」

[煙の習性のミニ豆知識]

1. 熱せられて空気より軽くなり上昇する
2. 天井まで上昇すると横に広がる
3. 煙の量が増えると下に広がり、水平に広がる

※参照：兵庫県三木市「煙の知識を身につけよう」

火事が起きたら？(その①)

● 避難の方法は？

煙は天井に集まるよ。煙の高さにより、姿勢を変えて、ハンカチやタオルで口と鼻をおおい、少しでも煙を吸わないようにしよう。



エレベーターは使わず、階段で逃げよう。火や煙で階段が使えなくなり、2階などから避難できないときは、ベランダなどで身を低くして、火や煙を避け、助けを待とう。



● 119番通報をしよう

火事や急病の人を見つけたときは、すぐに119番通報をしよう。周りの人に早く知らせることも大切だよ。

119番通報HP (119番通報の仕方)

- ・正しく119番する
- ・「火事」か「救急」かを伝える
- ・住所（区名・町名・番地）と名前、電話番号を伝える
- ・電話に出た人が「わかりました」というまで電話は切らない
- ・携帯電話で119番通報を行うときは、必ず「横浜市」とつけて住所を伝える
- ・場所がわからない場合は、目標を伝える

[避難の方法の説明]

⑤ 姿勢を低くし、煙の下の空気層で息は止めずに少しずつ浅めの呼吸をしながら避難。息を止めて途中で我慢できなくなると、一呼吸で大量の空気（煙）を吸い込んで倒れることがある。また、避難時はタオル、服等で口と鼻を覆う。

※参照：京都市消防局「火災から命を守る避難のパンフレット」

[児童考察]

①火災避難する時にはおはしも意識するとよい。語呂の良い単語だと児童も覚えやすい。

- お：押さない
- は：走らない
- し：しゃべらない
- も：戻らない

※参照：東京消防庁「第9章 避難」～2 火災時の避難のポイント～（4）避難の約束と誘導灯

「走らない」、「しゃべらない」は煙を吸わないという点でも大切。

文字の色について

赤文字：単語の意味の説明

青文字：児童に促したいポイント(児童への支援の視点や発展的な内容)

緑文字：ミニ知識(補足)

[消火器説明]

①住宅用消火器には、適応する火災が%で表示されているため、必要な用途のものを選ぶ。

消火薬剤が

- ・粉末のもの＝粉末の薬剤が広い範囲を覆って、火勢を抑える。制炎性の優れた粉末で消火する。
- ・液体（強化液）のもの＝薬剤が霧状に放射され火を消す。水系のため冷却効果と浸透性に優れており、布団火災や、天ぷら火災に効果的である。
- ・青丸＝電気火災用

※参照：総務省消防庁「住宅用消火器」～3 住宅用消火器Q&A



普通火災用



油火災用



電気火災用

天井に火が燃え移ったら、消火器での消火は困難。服装や持ち物にごくわらず、できるだけ早く避難する。

[こんろのミニ知識]

火から離れるときは必ずこんろの火を消す。ガスこんろに火をつけているのを忘れてしまったり、電話やお客さんが来てその場を離れてしまったりすることで起きる火事はとても多い。

※参照：横浜市「こんろ火災」

[放火火災のミニ知識]

放火火災は横浜市の火災原因の上位となっており、日が沈む夕方から人々が睡眠する深夜にかけて多く発生するという特徴がある。

放火を防ぐために、家の周りに燃えやすいものを置かない等の「放火されない、放火させない環境づくり」に努めることが大切。

※参照：横浜市「放火」

火事が起きたら？〈その②〉

●● 消火器を正しく使おう

火事は、火が小さい初めのうちなら、消すことができるよ。自分たちで消火できるときは、逃げ道を考えてから、消火器で火を消そう。ただし、危ないと思ったら、消火をやめ、すぐに避難しよう。



1. 火災を発見した場合は、すぐに大きな声で周りに知らせる。
2. 燃えている物の3～5mくらい離れた安全な場所まで進む。
3. 黄色い安全栓を抜く。
4. ホースをはずししっかりと持ち、火元に向け、レバーを強く握る。

火事の予防をしよう

火事で危ない目に合わないためには、火事を起こさないことが一番！いろいろな火事の原因と防ぐ方法を勉強して、火事をなくそう。

● こんろ



- ・料理中に火を使っているときは、その場を離れないようにし、離れるときは、火を消してからしよう。
- ・台所の整理整頓をしよう。
- ・着ている服に火が触れないように注意しよう。

● 放火



- ・ごみは決められた日、時間、場所に、出そう。
- ・おうちの周りは整理整頓して、燃えやすい物を置かないようにしよう。
- ・物置や車庫、玄関には鍵をかけよう。

● 花火・火遊び



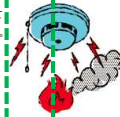
- ・花火は、大人と一緒に楽しもう。
- ・花火は、広い場所で、風のない日に楽しもう。
- ・必ず水バケツを用意し、火は雑草に消そう。
- ・ライターやマッチは子どもだけでは絶対に使わないようにしよう。

住宅用火災警報器とは？

住宅用火災警報器は、熱や煙に気づくと、音やメッセージで火事が起きていることを教えてくれるよ。火事を早く発見するのに、非常に役に立つんだ。

※横浜市消防局HPI 住宅用火災警報器

横浜市 住宅用火災警報器 Q検索



消防の仕事を知ろう〈その①〉

消防署の仕事は、大きく分けると、総務(庶務)の仕事、火事を予防する仕事、火事などの災害に出勤して消火したり、人を助けたり、急病人やケガ人を病院に運ぶ警防の仕事があるよ。

◆総務(庶務)の仕事

消防職員や消防団員が働きやすいように、必要な事務をしたり、消防署の建物や消防車などの管理をする。また、消防署で使う品物などの管理をする。



◆予防の仕事

・住民のみなさんなどへの訓練・指導をおして、火事の恐ろしさを知ってもらい、火事を出さないように呼びかけをする。

・デパートや病院など、建物にある消火器や火災報知器などが法律のとおりつけられているか検査する。



◆警防の仕事

警防の職員は、24時間ごとに交代して働いているよ。

消火活動

消防の仕事の中で一番知られている火を消す仕事



救急活動

急病人や交通事故でケガをした人などに応急処置をしたあと、病院に運ぶ仕事



消防の仕事質問コーナー

※横浜市消防局HPI お出かけ防災教室

横浜市消防局 お出かけ防災教室 Q検索



救助活動

火事で逃げ遅れた人、交通事故で車に挟まれた人などを救助する仕事



火事の原因調査

火事が起きた原因は何か、どのように燃え広がったかなどを調べて、その結果をこれからの火事の予防に役立てる



[花火のミニ知識]

気軽に楽しめる花火も、火災や火傷などの事故につながりかねない。

《花火を安全に遊ぶポイント》

- ・風の強いときは花火をしない
- ・燃えやすいものがなく、広くて安全な場所を選ぶ
- ・説明書をよく読み、注意事項を必ず守る

※参照：総務省消防庁「火遊び・花火による火災の防止」

[火遊び火災のミニ知識]

横浜市内では過去10年間で火遊びによる火災は137件ある。時間帯別の発生状況は、13時台から18時台で89件(約65%)発生しており、子どもたちの学校が終わる放課後の時間帯に多く発生していることがわかる。

《火遊びをさせないためには》

- ・幼児期から火災の怖さや火遊びの危険性を教える
- ・保護者、学校、地域が連携して、子どもの火遊びによる火災を防ぐ
- ・ライター等は、子どもの目に触れない場所、かつ、手の届かない場所で厳重に保管する

※参照：横浜市「しない、させない、子どもの火遊び」

文字の色について

赤文字：単語の意味の説明

青文字：児童に促したいポイント(児童への支援の視点や発展的な内容)

緑文字：ミニ知識(補足)

消防の仕事を知ろう②


● いろいろな消防車

火事や救急活動などの災害に対応するために、消防自動車にもいろいろな種類があるよ。


■水槽付きポンプ車
車に水を積んでいるので、現場にいらすくに放水ができる




■はしご車
高い建物の消火や、逃げ遅れた人を助ける



■救助工作車
人命救助に必要な道具を積んでいて、交通事故や火事の現場などで活躍する車



■救急車
ケガをした人や病気の人の救命処置を行い、病院までいち早く運ぶ車



■特別高度工作車
大量の風や雨による放水ができ、トンネルや地下街などで起きた火事で活躍する車



■けん引工作車
重量36トンまでの物を吊り上げたり、引っぱりすることができる



＜その他の消防自動車なども下のQRコードから見てみよう！＞


※横浜市消防局HIV 主な配置車両

横浜市消防局 主な配置車両  [Q 検索](#)

お知らせ

ウェブサイト上で動画等のコンテンツより防災を学べる。よこはま防災eパークを開設したよ。

火災や地震などについて学べるだけでなく、消防職員インタビューなどもあるので、ぜひ見てね!

よこはま防災eパーク  [Q 検索](#)

大雪に備えよう

● 大雪が予想されるときは？

- 急ぎでない外出は避けよう
- 事前の備えとして、自宅に懐中電灯、携帯ラジオ、飲み水、食べ物などを準備しておこう
- 一酸化炭素中毒防止のため、家にパイプで外につながっている暖房機があったら、外の出口付近が雪でふさがれないよう気をつけよう
- ★FF式暖房機のこと、おうちの人に確認してみよう

● 雪かきを行うときは？

雪かき作業では、安全対策を図ることが大切だよ。家族や近所に声をかけ、準備運動をし、自分だけではなく、他の人も協力して行おう。また、高齢者の方が無理をせず雪かきができるよう、地域のみんなで助け合おう。



火山災害に備えよう

● 市内全体でこんな影響が予測されているよ!

横浜市周辺には、富士山をはじめとして、箱根山や伊豆大島など、複数の活火山があるんだ。主に富士山が噴火したときは、火山灰が降ってくることが予測されているよ。


● 火山灰が降ってきたとき、とるべき行動


- 防じんマスク、ゴーグル(またはメガネ)をつける
- 灰が目に入ったら、手でこすらずに水で洗す
- 長袖、長ズボンなどを着て、皮膚を守る
- 交通事故に気をつける(灰の量によっては外出しない)
- ドアや窓を閉め、建物の中に灰を入れないようにする

※食薬庁 火山に関する情報や資料の解説

食薬庁 火山に関する情報や資料の解説  [Q 検索](#)

※防災科学技術研究所 火山灰による健康被害

防災科学技術研究所 火山灰  [Q 検索](#)



※参照：消防庁国民保護 防災部防災課「雪害に対する備え」

※参照：横浜市「大雪に備えて」

【児童考察】
横浜市は大雪が降る確率が少ない地域ではあるが、まれに5cm以上、場合によっては10cm以上の大雪が観測される年もある。また、帰省やレジャーなどで雪の多く降る地域を訪れる際には、大雪に備えた知識が必要である。決して他人ごとで関係ないというわけではないということを理解させ、知識を身につけさせる。

【大雪の備えのミニ知識】
大雪、暴風雪等が予想される場合には、以下の注意点を参考に、安全確保を心がけるよう努める。

《雪かきの際の注意点》

- 横浜市民は大雪には慣れていないため、事故防止のためにも出来る限り不要不急の外出を避ける。
- 日頃からの災害の備えに追加して、寒さ対策グッズや雪かき用のスコップ、スノーブーツ、ヘルメットなどを準備する。

【雪かきのミニ知識】
《雪かきをする際の順序》

1. 天気予報を確認する。雪が降っておらず、明るい時間帯にする
2. 雪かきに適した洋服に着替える。「防水・防汗・防寒」が基本。
3. 水路が側溝の場所を確認して、雪を捨てる。

大事なことは、雪かきをする前に周囲の人に雪かきをする旨を必ず伝え、複数人で作業する。また、全国的に除雪作業による犠牲者は7割が高齢者であるため、近隣住民で声かけし、高齢者が無理することのないよう協力して雪かきを行う。

【火山災害のミニ知識】
横浜市内には火山はないが、周辺には富士山や箱根山などがあり、これらの火山が噴火した場合には火山灰等による被害が出る可能性がある。噴火警報・予報などの情報を得た時は、次のことを参考に、自分自身の身を守る行動をとるよう心がける。火山灰はとても小さいので、空気と一緒に肺の奥まで入ってくる。そのため、せきが増えたり、息苦しくなったり、鼻水やたんが増え鼻やのどが痛くなることもある。ぜんそくや気管支炎の人は、発作のようなせきや、胸のしめつけ感、呼吸で苦しくなることなどがあるので注意する。

《火山灰から身を守るポイント》

- 火山灰が目や鼻、口に入らないように、マスク、ゴーグル(めがね)をつける。
- 火山灰が目に入ったら、手でこすらない。コンタクトレンズをはずして、眼鏡を使う。火山灰が目に入ると、ごろごろとした感じがしたり、目のかゆみ、痛み、充血がおこったりする。ねばねばした目やにや、なみだが出ることもある。火山灰で目の表面に傷ができると、結膜炎になって、ひりひりしたり、まぶしく感じたりすることがある。
- 長袖、長ズボン等を着て、皮膚を守る。火山灰にふれると、皮膚が炎症をおこすことがあり、痛くなったり、はれたり、ひっかき傷からばい菌がはいったりすることがあるので、注意する。
- 火山灰が降ると見通しが悪くなって、横断歩道などの表示が見えにくくなる。道路に火山灰が積もると滑りやすくなって、自転車や自動車のブレーキがききにくくなる。極力、不要不急の外出は避ける。
- 建物の中に灰を入れない。建物の中に入ったら、上着を払い灰を落とす。ドアや窓の隙間、通気口などをテープや湿ったタオルでふさぐ。

※参照：横浜市「火山災害について」